

葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会 委員名簿（敬称略）

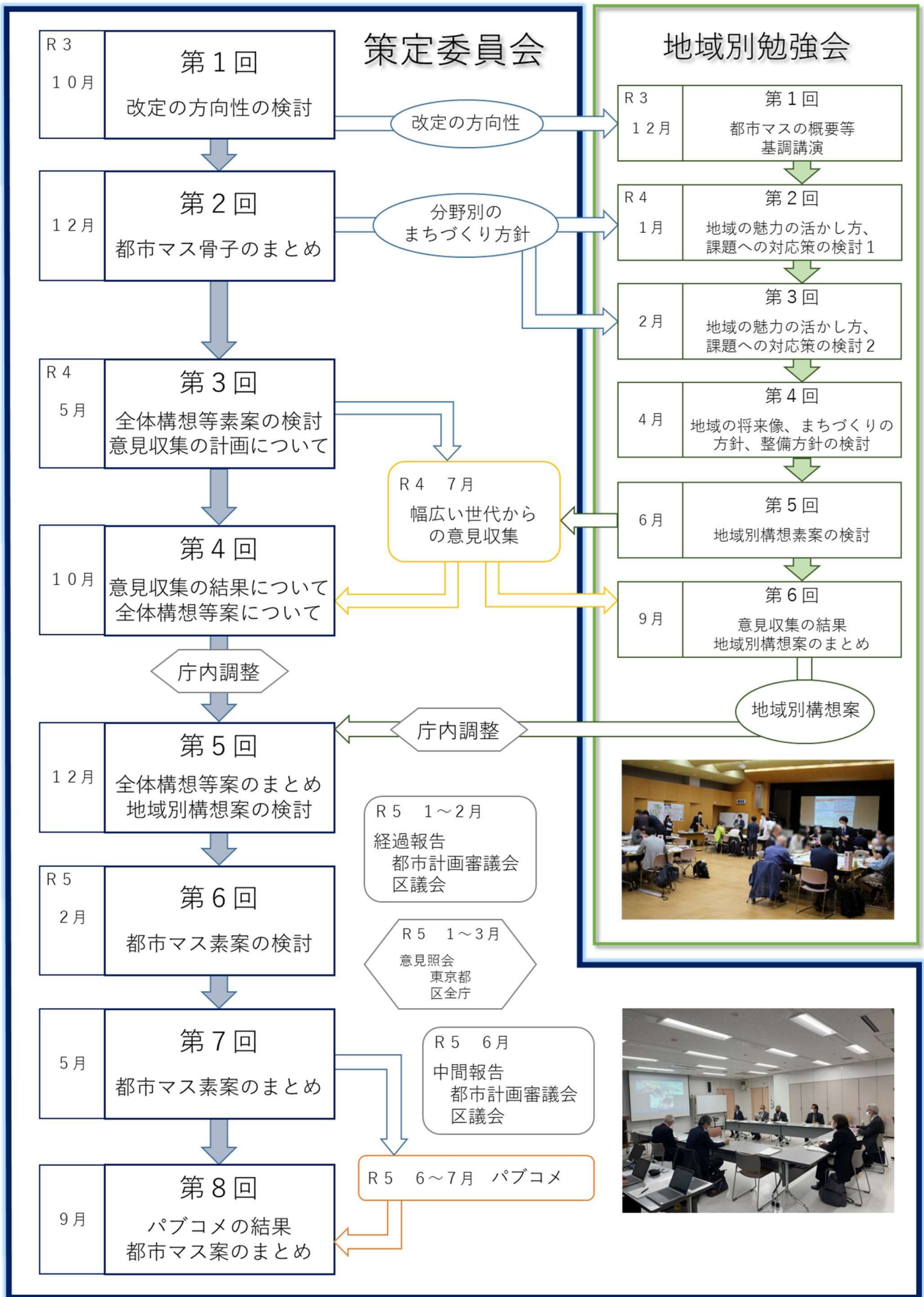
委員長	佐野 克彦	元東京都建設局長
副委員長	加藤 孝明	東京大学生産技術研究所 教授
委員	郷田 桃代	東京理科大学工学部建築学科 教授
委員	轟 朝幸	日本大学理工学部交通システム工学科 教授
委員	阿部 伸太	東京農業大学地域環境科学部造園科学科 准教授
委員	泉山 壘威	日本大学理工学部建築学科 准教授
委員	谷澤 多美雄	葛飾区 自治町会連合会
委員	矢部 文雄	東京商工会議所 葛飾支部 副会長
委員	中村 靖雄	東京都建築士事務所協会葛飾支部 支部長
委員	青木 堅治	東京都宅地建物取引業協会葛飾区支部 支部長
委員	吉田 眞	葛飾区都市整備部長
委員	今井 直紀	葛飾区交通・都市施設担当部長
委員	泉山 省吾	葛飾区街づくり担当部長

葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会スケジュール

令和3年10月25日	第1回 委員長の選出等 改定の方向性について
令和3年12月23日	第2回 都市マス骨子のまとめ
令和4年 5月27日	第3回 全体構想等素案について 住民意見の反映について (意見収集の予定・地域別勉強会の経過報告)
令和4年10月25日	第4回 住民意見の反映について (意見収集の結果・地域別勉強会の経過報告) 全体構想等案について
令和4年12月22日	第5回 全体構想等案のまとめ 地域別構想案について
令和5年 2月10日	第6回 都市マス素案について
令和5年 5月16日	第7回 都市マス素案のまとめ (その後、パブリックコメント)
令和5年 9月頃	第8回 パブリックコメントの結果報告 都市マス案のまとめ

(参考)

	予定	策定委員会	地域別勉強会
令和3年	10月	第1回	—
	11月	—	—
	12月	第2回	第1回(12/12)
令和4年	1月	—	第2回(1/15)
	2月	—	第3回(2/20)
	4月	—	第4回(4/24)
	5月	第3回	—
	6月	—	第5回(6/11)
	7月	区民意見収集	
	9月	—	第6回(9/3)
	10月	第4回	—
	12月	第5回	—
令和5年	1月	経過報告(区議会)	
	1～2月	意見照会(区全庁)	
	2月	第6回	—
		経過報告(葛飾区都市計画審議会)	
	2～3月	意見照会(東京都)	
	5月	第7回	—
	6月	中間報告(葛飾区都市計画審議会・区議会)	
	6～7月	パブリックコメント	
	9月頃	第8回	—
	12月頃	都市マス改定	



第 6 回策定委員会における主な意見

項目	意見
都市マスの基本方針	理想像の上の 5 つのまちづくりの目標が目立たないので、もう少し強調した方がいいのではないか。資料 5 p.33、34
市街地整備	<p>p.19、まちづくりの主要課題には、再開発とエリアマネジメントという言葉が中心になっているが、p.63 からの市街地整備の方針では、市街地開発からウォークブルの話まで、もう少し、いろいろなことが書かれているので、その辺の対応関係がもう少し分かると良いのではないかと。</p> <p>例えば、現状の葛飾区の課題だけでなく、環境などの社会情勢の変化や新たなニーズへの対応といったこともあると思うので、新しいテーマに取り組むところもまとめると、方針との関連も強くなるのではないかと。</p> <p>資料 5 p.45、46</p>
	<p>p.68、1 つ目の項目にある、地域らしい風情に配慮した空間形成のイメージが伝わりにくいので、例えば、地域別構想の中にある、柴又の文化的な景観のような、風情のある写真をどこかに掲載してもらいたいのではないかと。</p> <p>資料 5 p.128</p>
交通体系整備	<p>p.74、a.南北方向鉄道網にある、新金線については、沿線地域をはじめとする区内全体の活性化を図るため、というのは、区内全体の何の活性化なのか。移動あるいはモビリティの活性化がよいのではないかと。</p> <p>また、周辺も含む地域の利便性を高めるなど、については、意味が伝わりにくいので、これは不要ではないかと。</p> <p>資料 5 p.74</p>
地域別構想	<p>葛飾らしさ、下町らしさの写真として、p.125 からの柴又エリアのところに、柴又ならではの風景が伝わるよう、アイレベルでの写真の掲載を検討してみてはどうか。</p> <p>柴又の景観として考えられるところは、門前町の入口付近とか、境内の手前とかぐらいではないだろうか。</p> <p>資料 5 p.128</p>

	<p>先日、新小岩にサッカースタジアムをつくることがメディア報道されていたが、今後、大きなプロジェクトとして動いていくとなると、p.143 奥戸・新小岩地域の中に、書かれていた方がいいのではないかと思うし、土地利用や市街地整備の方針にもどこかに一言あっていいのではないか。</p> <p>都市マスとは、やれることを書いていくという行政計画的な意味合いもあるが、葛飾の場合は、まだ、まちの大きな変化がありうるので、志や理想というか、まだ未来の話で不確定なことについても、時代を先取りして書いていくということを少し強めに入れて、区民の総意として「こんな方向にしてはいけない」、「こんな方向であってほしい」ということは、ある程度方向づけをしておいた方がいい気がする。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.62、83、89、144、145、146</p>
<p>都市マス表紙のデザイン</p>	<p>より多くの区民の方々が、手に取って見たい、と思うような表紙、という意味で、ポップで楽しそうな雰囲気のある渋谷区のものはいいと思う。</p> <p>ただ、渋谷区は、都市マスタープランではなく、まちづくりマスタープランとしていて、どちらかというと、人やプログラムに軸足があり、そこから空間に展開している感じなので、こういう表現になっているわけで、葛飾区の場合は、やはり空間も大事なので、渋谷区のようなポップなスタイルをベースにしながらも、もう少し空間の特色、こういう風景になっていく、というところが表現されるといい。</p> <p>葛飾区は、水害対応も含めて、これからどんどん空間が変わっていくということで、こういう葛飾にしていくのだ、という意図が伝わるような表紙がいいだろう。</p> <p>都内でも山の手の方に住んでいる人の中には、「葛飾って千葉？」という方もいるくらいなので、外向けにイメージが伝わるよう、葛飾らしさを示す写真や絵をきちんと描いた方がいいのではないか。</p> <p>未来感を描き、強調したいものをデフォルメ的に描くという意味で、イラストは良い手法だと思う。また、若い人に受けるという点では、アニメ風のものも1つのアイデアとして検討してもらえればと思う。</p>

基本構想に入っていた人情、葛飾区特有の人情が分かるような表紙ができれば、面白いのではないか。

人情とよく言われるが、困っている人がいれば救いの手を差し伸べるというのが葛飾にはあるのかなと思う。しかし、それを表現することは大変難しい。p.28 を綺麗にしてもらうとかでもいいのではないか。前回の七曲りの写真もいいが、暗い印象なので、明るい表紙にしてほしい。

人情をイラストなり何らかの形に表すことは難しいことではあるが、葛飾区の良さはそういうところにあることは皆さんが折々感じるところでもあるので、チャレンジして表現してもらえたらいい。